

学校教育目標	夢に向かい、学び合い、認め合い、鍛え合う主体的に生きる子どもの育成
育成を目指す資質・能力	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的な力を確実に身に付ける力 ・身に付けた力をいかし、自分で考え、判断したり表現したりする力 ・自分から進んで学び、粘り強く挑戦する力

	学力状況について	学習状況について
児童生徒の課題	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 ○学年全体の平均正答率では、どの教科も概ね学習内容の定着ができています。しかし、個人差がある。 ○学習内容と日常生活の中にある現象との関係性がつながっていない。 ○段落数や文字数、使う言葉などの条件にそった文章を、書けない児童が多い。 ○問題の読み間違えや勝手な解釈で答えを出さず児童がいる。	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 ○学習意欲や理解、学習することの必要性等について、肯定的にとらえている児童が多い。 ○授業内容が「分かった」、「できた」と感じている児童が多い。すべての児童に「分かった」「できた」と感じさせるよう、個別の指導や教科担任制による専門性を生かした指導など工夫し、より一層意欲的に授業や学習活動取り組めるようにすることが必要である。
	これまでの学力向上の取組に対する児童生徒の状況(授業及び授業以外の側面から) ○日記や意見を書く取組を続けたことで、文章を書くことへの抵抗感は減り、自分の考えを進んでノートに書けたと肯定的にとらえている子が多い。 ○知識・技能の観点では、スモールステップや習熟度別、個別の指導に加え、高学年での教科担任制にも慣れ、学習内容の定着が図れた。 ○算数の文章問題では、線分図や数直線を立式の際の根拠として、系統的に利用できるように引き続き指導したことが、日々の授業に生かされた。 ○考えを交流する方法を工夫して行うことで、自分の考えや理解を深めることができた。 □音読の量が少ない。図書の貸し出しでは、物語を借りている児童が少ない。	
指導の状況	1 組織的な授業改善の取組状況 ○考えを伝え合う活動では、ノート交換、ロイノートなどのICTやホワイトボードの活用で意見の交流を図り、学習内容についての理解を深めることができた。 ○低学年では、教材教具を工夫し、時間・単位などを実感や量感が伴えるように指導を行うことで、「分かった」「できた」と実感できる授業づくりができた。 ○高学年では、教科担任制を導入し、教材研究を深め、指導方法の改善・工夫ができ、効果的な指導ができた。 ○学年×10+10分の学習ができたと肯定的に答えた子が少し減った。	
	2 その他の学力向上に向けた指導の取組状況 ○家庭学習では、ドリル学習だけでなく週末課題の工夫で思考力をはぐくむ学習が行えた。また、中学年以上では、自主学習の内容が充実するように学年に応じた指導を行った。 ○図書室の利用を積極的に取り入れ、読書量の向上と発達の段階に合った質の向上を条件を決めるなど、さらに指導を行っている。 □週末課題で初見の物語文などのプリントを出して読み取りの力を付けさせていくようにした。	

学力に関する達成指標

国語・算数の「思考」で80点以上の達成者数を8割以上にする。

今後の具体的な取組	【授業改善】	【家庭・地域との協働】
	〈授業改善のテーマ・重点〉 ○子どもが「分かる」「できる」と思う授業 ○進んで考えを伝え合う子どもの育成	〈家庭・地域の取組内容〉 家庭 ・メディアコントロール ・家庭学習
	〈取組内容〉 ○子どもの声から「課題」を設定するなど工夫し、子どもたちが意欲的に自分の考えを書く場を設定する。 ○学び合いの手立てを工夫し、子どもたちが進んで考えを伝え合う場を設定する。	〈家庭・地域の取組指標〉 家庭 ○毎日の声かけ ○毎日決められた時間(学年×10分+10分)、家庭学習に取り組んでいる子どもをABで95%以上にする。 ・メディアコントロールを行い、生活習慣(早寝・早起き・朝ごはん)が定着している子どもをABで80%以上にする。
	〈取組指標〉 ○各時間、子どもの声から「課題」を設定するなど工夫し、子どもたちが意欲的に自分の考えを書く場を設定する。 ○各時間、学び合いの手立て(ノート交換、付箋、ICT機器の利用)を工夫し、子どもたちが進んで考えを伝え合う場を設定する。 ○週に1回は、字数や段落数、漢字を○文字以上使うなどの条件を付けた書く活動を設定し、行う。 ○各種学力調査や単元末評価テスト、学期ごとの学校アンケート→学年部、学力向上担当を中心に集計し、全体に周知するとともに各部会で取組の見直しを行う。 ・3週に1回の各部会で、指導の改善点を明らかにしていく。	〈家庭・地域の検証指標〉 学期ごとに学校運営協議会で、アンケート結果をもとに検証
	〈検証指標〉 ・国語、算数の単元末評価テスト「思考」で80点以上の達成者数を80%以上にする。 ・授業、学習内容が「分かる」「できる」と思う子どもをABで85%以上にする。 ・課題や学び合いの手立てを工夫し、進んで考えを伝え合うことができた子どもをABで95%以上にする。	
【授業改善以外の学力向上の取組】 ○9年間を見通した家庭学習の指導をすることによって、子どもたちが学年に応じた家庭学習時間を確保する。 ○校時表の見直しによる、放課後の時間を個別指導、補充指導にあてる。 ○図書館利用の方法を工夫し、読書の機会を確保する。		